

春は  
転機の時  
変化はチャンス！

府中市生涯学習センター

# 生涯 楽 習 だより

## 第83号

2023年4月1日 発行

<春号>

企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」

共同発行：府中市文化スポーツ部文化生涯学習課

生涯学習センター（ミズノ・KPBグループ）

四月



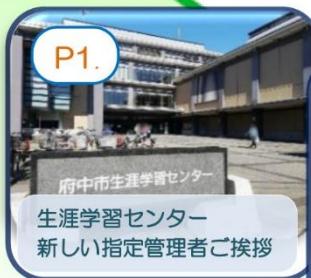
五月



六月



P1.



府中市生涯学習センター  
新しい指定管理者ご挨拶

P2.



・「写童12」の紹介  
・悠学の会 会員投稿

P3.



インタビュー  
まちづくり府中・関谷さん

P4.



[ふちゅう東西南北]  
「六所宮」のいわれを訪ねて

春の花

4月：ふきのとう  
5月：ガーベラ  
6月：紫陽花

<作品提供>

植物画の会

## 生涯学習センター 新指定管理者 「ミズノ・KPBグループ」からのご挨拶

2023年4月1日より、ミズノ・KPBグループが府中市生涯学習センターの指定管理者として管理運営させていただきました。

創立30年という歴史ある施設をお預かりすることを、大変光栄に思っております。

府中市独自の生涯学習理念である「学び返し」を実践すべく、本施設の機能を最大限に活かした教養・生活実技講座を実施するとともに、学びから得られたものを地域や社会に還元できるよう、市民の皆様の活動を継続的にサポートしてまいります。

また、地域社会の一員であるという自覚のもと、生涯学習ファシリテーターの有志や地域で活動する個人・各種団体との連携を強化し、市民協働で講座等の事業を展開することで、「市民協働都市宣言」の推進に寄与してまいります。



職員一同、サービス向上に努め、府中市の生涯学習及びスポーツの推進を図るための拠点として、これまでの成果を大切にしつつ新たな取組みに挑戦し、市民の皆様に親しまれるよう、より良い運営を目指し尽力してまいる所存です。

どうぞよろしくお願ひいたします。

府中市生涯学習センター指定管理者  
ミズノ・KPBグループ

### 表紙のつぶやき

変化はチャンス！この春は一步踏み出そう！

梅の花は春の訪れを知らせ、桜の花が春を喧伝する。明るい日差しは生活に輝きを与え、良いことが起きそうな期待感を生む。季節が変わった。チャンジはチャンスとか。私もささやかなチャレンジをひっそりと試みようかな。（編集部・中井博子）

くみなさんもちょっと踏み出してみませんか？

### 編集部だより

は、悠学の会のWEBサイト「悠WEB」でもご覧になれます。この最新号は勿論、バックナンバーも多数掲載されています。

今回は、第4面の追加記事「五ノ宮・金鑽神社を訪ねて」もアップしました。是非ご覧ください。





# 生涯学習センターを中心に活動する 自主グループの紹介

今回は、生涯学習センターの講座から生まれた写真のグループ「写童12」を紹介します。

## 写真クラブ「写童12」

「写童12」は、生涯学習センターの「デジタル一眼レフカメラ写真教室」の受講を機に写真を趣味にと思う仲間が集まり、2012年に12名で発足した写真クラブで、現在は15名で活動しています。

活動は毎月第2火曜日に行い、3か月単位で①撮影会②撮影会③講評会を年4サイクルで回しています。主な撮影場所は東京都内の公園等、作品講評会は生涯学習センターで行います。

講師は、植物写真家の宮沢あきら先生にお願いし、撮影会や講評会でより魅力的・個性的な写真へのご指導をいただいております。和気あいあいと活動し撮影会や講評会を通じ撮影技術の向上や会員の親睦を図っています。

1年間の活動成果として、生涯学習センターにおいて5月にクラブの作品展を開催し、また、秋の生涯学習フェスティバルの市民作品展に積極的に参加し、市民の皆様にご覧いただいております。昨年10月には発足10周年を迎えたことを記念し、調布市文化会館たづくりのギャラリーにおいて「10周年記念写真展」を開催し、多くの皆様にご覧いただきました。



<講評会の様子>



<撮影会の一コマ>

**活動場所:** 生涯学習センター ほか

**活動日:** 月1回（第2火曜日）

**指導者:** 宮沢あきら先生  
(日本写真家協会会員)

**年会費:** 20,000円

**連絡先:** 北原 090-4139-2299

懇学短信

## ☆『生涯学習だより』編集担当者に聞いてみました

### 変化のとき どうする？ あなたは…

好機にもなり得る変化—赴任、転勤など一に当たり人の心は様々でしょう。京から武蔵に着任した国司は六所宮に赴任中の安寧を祈ったのであろうか。駐日R国大使は赴任後、多磨霊園に眠る祖国の英雄R.S氏の墓前で何を思うのであろうか。23年前に府中に転勤したが、ここで貴重な体験ができた。幼いながら共に転居した子らには進学や就職などで著しい影響を与えたが、「府中に来て良かった」と思ってくれていると良いのだが。（中濱敬文）



人生100年時代の文字は、日常生活の中ですっかりお馴染みになっていますが、日本老年学会では65から74歳を准高齢者、75から89歳を高齢者、90歳以上を超高齢者と提言しています。今夏に私は年齢の中で1つの節目を迎えますが、老化を悲しむことではなく新たな生活へのチャンスと考え、青年期の“生産目標”から“芳醇な生活”への転換期に意識を変えます。

油絵具を求め、ワクワクした気持ちで街歩きをし、とりあえず8号のキャンバスに向かいましょうか。（柴田洋子）



4月になった。世の中は新年度、学校では新学年が始まる。大きな変化を迎える人たちも多いだろう。現役を引退した私も、周りの影響もあって、4月には変化を求めて何かにチャレンジしよう！と、あれこれ考える。今年こそは何かを！と思うが、モタモタしているうちに、来年の4月でいいや！となる。一方で、何か新しいことにチャレンジするのは若い人たちで、私たちシニアは平穀無事であれば良いのだとも…気合がぬけていく。（鈴木禎治）



定年過ぎて幾年月。幸い今でも元気に働けている。府中が好きで勤務地は全て市内だが、仕事は長・短期合わせて5回変わった。直近では2月に前の仕事の契約期間が終了したが、運良く3月からの新しい仕事が決まった。当然、前の職場では古参だったのに、また新人からスタートだ。何でも再利用して持続可能な世の中を目指す現代に調和していると自賛もしたいが、何よりも新たな場所で新たな知人が増えることはとてもありがたい。（竹村稔）



## 学びを楽しむ 学びを支える その(13)

### 若い視点から府中のまちづくりに取り組む 関谷昂さん (多磨町在住)

東京外国语大学の在学中から世界の街を見て歩き、その時感じた思いをベースに府中のまちづくりに若い感性で取り組む「まちづくり府中」の関谷昂さんに伺いました。



まちづくりに興味を持たれたのはどういう経緯ですか

私は小さな時から多様な価値観を体験してみたいという強い思いがあって、東京外国语大学に入ったのです。もともとは街というものにあまり興味なかったのですが、世界を見て歩いていくうちに、街が「消費する場」だけでなく「みんなで作り上げる有機体」に感じられ、街って面白いなって思うようになったんです。そこから“まちづくり”に関わってみたくなって、在学中から縁のあった府中で活動を始めました。府中は外からは入りにくいと聞くこともありました。私自身として、は皆さん快く迎え入れてくださると感じています。府中で活動するに連れいろんな人と交わっていくと、どんどん世界が広がって、この街のポテンシャルの高さを感じました。



まちづくりの1つとして「サードプレイス」作りに取り組んでおられるようですが

私が代表をしている団体に Youth Action for Fuchu があります。ここでは“若者の視点でまちに貢献する”という意識で活動しています。中学生や高校生と話をしていて、感じたのがサードプレイスの必要性です。誰でも、「家庭」「学校や職場」というファーストプレイスとセカンドプレイスを持って、それぞれで自分の役割を果たしているわけですが、その役割を離れて自分自身のペースで生きる場所=サードプレイス（第3の学びの場）が必要ではないかと思ったのです。そこで色々な出会いの体験は、自分の世界を広げていくのに有効だと思います。私も幼い時には優等生的に生きていて、何か息抜きの場が欲しくなった経験があります。私の場合は英会話教室だったのですが、そこでは違った出会いや経験があって、自分の世界を広げていけたと思います。だから、誰でもそんなサードプレイスが必要なのでは、と考えるようになりました。



今取り組んでいるのは、中高生向けのサードプレイス「Co-study space "Posse"」。家庭や学校、塾以外の出会いができるたまり場で、そこに来る生徒たちの特性や可能性を引き出す試みをしています。また、私が大学在学中に立ち上げたシェアハウス「たまりば」も、サードプレイスの一つとして運営しながら自分もそこに住んでいます。ここには相手の話を否定する人が基本的にはいない。ここにいると自分が考えていることが普通に話せて、新しい視点も得られてすごく良かったと、シェアハウスに集う人たちは言っています。否定される怖さを持たずに普通に話せる場の大切さを感じます。

この取り組みはまちづくりにも繋がりますか

全部繋がっていて、場づくりをしているのもまちづくりをしているのも同じことだなって思っています。やっぱり人が幸せに生きるということに大切なのは、偶然の出会いとか多様な関係性とかだと思うのですね。同じような事を考えている人ばかりだと、街って成り立たないじゃないですか。いろんな人がいるからこそいいので、近所付き合いもあまりない世界だと、みんな自分の世界に閉じこもってしまいます。それを開いていって、街というものを一緒に作っていくという感覚を持つことで、この街に住んでいる人達は、みなそれぞれに幸せに生きていけるようにしたいなっていう思いが根本にあるのです。いろんな人と出会う機会とか多様な関係を結んでいくきっかけを、場づくりやまちづくりを通して実現していきたいです。

「まちづくり」をすすめるに当たって、シニアが壁になることはありませんか

今まで街で培われてきたものを否定的に見る人もいますが、そこは自分たちを育ててくれたところですし、たとえ違和感を感じたとしてもそこへのリスペクトは必要だと思います。ただ、世代が偏っている場合はバランスをとる必要があります。それぞれの世代が考えていることを共有しながら、その中で出てきたアイデアや方向性を取り入れてみんなで一緒にまちづくりを楽しんでいける流れにしていきたいと思っています。

そんな中で、シニア世代が壁になるという人もいますが、確かにシニアは考え方がありにくいう特徴もあるかもしれません、接する機会を増やして、若者にはない経験知をリスペクトしながらフラットに話しあっていけば、若いから、シニアだからではない良いアイデアが得られ、さらに前進させていくことで見えてくる事もあると思います。

新しくすることばかり考えるのではなく、伝統とかその流れの様なものを意識しながらも、時代に合わせて変えていく。そんな取り組みが出来たらと思います。

これからまちづくりでやりたいことは?

ケヤキ並木の活用ですね。あの穏やかな空間は、府中の魅力につながっていると思います。椅子や机を設けて、みんながのんびりと過ごせる場所が作れればいいなーと思って取り組んでいます。府中の伸びやかな雰囲気を、きっと世界に発信できると思います。府中は、それだけのポテンシャルの高さを持っていると思います。また、このような場が様々な方にとっての交流の場になれば、なおいいですね。



(取材: 奥野、渡邊、竹村、柴田、山田 / 記: 西谷)

ふちゅう東西南北

# 大國魂神社はなぜ「六所宮」という？

コロナ禍も少し落ち着き、チャンス到来！ずっと気になっていた謎「大國魂神社に、なぜ六所宮という別称があるのか？」 神社に聞いてみた。その後、各宮も取材した。



## 六所宮のいわれ

大國魂神社が六所宮と言わされているのは、次のような経緯があるそうだ。大國魂神社は武藏国の総社であるとともに、武藏国内の主要な六ヶ所の神社の祭神を合わせて祀っているので「六所宮」と称している。



古代、武藏国の国司は、国内の主要な六ヶ所の神社を順に巡拝していたが、これを簡単に行えるよう国府の近くに合祀した総社を設け、まとめて祭祀を行うようになった。

六所とは、一ノ宮=小野神社（多摩市）二ノ宮=二宮神社（あきる野市）三ノ宮=氷川神社（さいたま市）四ノ宮=秩父神社（秩父市）五ノ宮=金鑽かなさな神社（埼玉県児玉郡）六ノ宮=杉山神社（横浜市）で、神社の規模ではなく国司の巡拝順に一から六が定められたと言われている。大國魂神社では、本殿の真ん中（中殿）に大國魂大神、東殿（向かって左）に一ノ宮、二ノ宮、三ノ宮、西殿（向かって右）に四ノ宮、五ノ宮、六ノ宮が祀られている。<写真参照>

例年5月に行われる大國魂神社の例大祭（くらやみ祭）には六所の神輿が繰り出される。

今年は3年ぶりに通常の祭りになるようだ。神社に観に行って六所宮に想いを馳せてみては。（渡邊繁雄）

## <一ノ宮> 小野神社を訪ねて

大國魂神社に六所宮の一ノ宮として祀られているのが多摩市にある小野神社。住所も東京都多摩市一の宮。

京王線・聖蹟桜ヶ丘駅から川崎街道を西に歩いて行くと、「武藏一之宮 小野神社参道口」の大きな石柱があった。

参道を辿り、石造りの鳥居、隨神門を抜けると朱色の拝殿は静かな佇まい。隋神門は眼がキラリと光る龍や鬼のような彫り物が施されていて、圧倒される空気に満ちた門構えだ。



社務所を訪ね神職のお話を伺った。印象深かったのは、以前はくらやみ祭の時、神輿を大國魂神社まで氏子が担いで行ったとの事。多摩川を越え神社までの道のりはかなり大変だったのではと感じた。

別の参道から駅へ戻る途中「小野の渡し」との石碑があった。まだ多摩川に橋が架かっていない頃には対岸の府中への渡し船があったのだろう。後日、府中側の多摩川沿いの道で、「中河原の渡し」と「一ノ宮の渡し」という石碑を見つけた。もしかしたら、大昔は神輿も船で渡ったのか？それとも川を担いで渡ったのか？そんな頃をのぞいてみたくなった。（辻 麻美）

## <三ノ宮> 境内約3万坪の氷川神社

大國魂神社の六所宮の三ノ宮・氷川神社は、埼玉県さいたま市大宮にあります。JR・私鉄大宮駅東口から徒歩15分ほどにあり、境内地は約3万坪。

創建約2600年の日本屈指の古社で、格式の高さを誇っています。以前、「悠学の会」のバス研修で訪ねたことがあり、その広さに驚きました。

氷川神社の参道は2kmで日本一の長さです。三の鳥居から楼門まで続く敷石は東京都電の軌道に使用された石。大隈重信や渋沢栄一らを筆頭に奉納されたそうです。

巨大な二の鳥居は樹齢1300年の檜材で昭和51年

## 神社を未来まで伝えてほしい

大國魂神社は創建後約1900年という。お話を聞いて、今まで続いてきたのは神社や庶民の人たちの柔軟さと逞しさの故だと思った。時代の要請に対応して、両者が共生し協力してきたからでしょう。ここには神様のパワーと庶民の気が集まっている。これからもダブルパワーを生かし発展していくほしい。今と未来のためにこのダブルパワーをいただいて、2倍の祝福をいただきに、さあ出かけるとしよう。（山田詩子）

## <二ノ宮> 二宮神社とモネの池

二宮神社と「モネの池」を取り上げたテレビ番組「三宅裕司のふるさと探訪」を見て興味を持ち、訪ねてみました。二宮神社は、武藏総社六所宮（大國魂神社）に2番目の神（二ノ宮）として祀られた神社です。周辺の地名も「二宮」と称されています。

二宮近辺で採れた生姜を神前に供えたことから、二宮神社の生姜を食べると風邪をひかない等と言われました。生姜は神様の授かりものと考えられ、いつの間にか「しうが祭り」が始まったとのことです。9月9日の本祭では、参道に生姜売りが並び神輿や子供歌舞伎が催されます。



表参道鳥居の道路向いの公園に、モネの絵画「睡蓮」のような美しい池「お池」があります。きれいな水は豊富な水量を誇る湧き水で、透き通るような池の中には鯉が優雅に泳いでいます。東京の名湧水57選のひとつで、池の中には菅野遊邦作の「雨乞いの男」という像があります。<右の写真>本当に神秘的な美しい池です。

静かな佇まいの二宮神社、そして美しい池。JR五日市線・東秋留駅からもそう遠くない（徒歩5分位）ので、訪ねてみてはいかがでしょう。（丸山まり子）



に明治神宮から移築されたものだとのことです。

横浜・山下公園に係留されている氷川丸の船名も氷川神社から。船内の内装には神紋の「八雲」が使用されています。

広大な境内に「へえ～」や「ほお～」の驚きがいっぱいの氷川神社。大國魂神社と関わりがあることを知ると親近感が持てました。（井口文江）